

# 希望に満ちた新たな時代を迎えて

新たな時代「令和」の幕開けに際し、市民の皆様にご挨拶申し上げます。

新元号「令和」には、「一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができるように」と願いが込められています。

市政をお預かりする者として、市民の皆様が希望を持ち心豊かに暮らしていくことができるよう、決意を新たに市政運営にあたる所存です。

さて、時代の節目にあたり、これまでの歩みを振り返ってみますと、平成の時代は市内でもさまざまな出来事がありました。安房トンネルの開通や東海北陸自動車道の全線開通など交通基盤の整備、飛驒牛に代表される飛驒ブランドの確立、平成の大合併、また、飛驒の匠や高山祭の屋台行事など当時の文化が国内外に認められたのも平成の出来事です。

現在を生きる者として、これら先人が苦勞の末に築き上げ、継承してきた高山の財産を次世代に引き継いでいく責務を感じずにはられません。私は、現在を大切に生きることが、未来を形作っていくと考えています。市民の皆様におかれましては、ぜひ、笑顔で楽しい日々をお過ごしください。笑顔の溢れるまちこそ、私が目指す「希望ある輝くまち高山」そのものであります。

これから始まる新たな時代が皆様にとって幸せに満ちた実り多き時となります。心より願っております。



高山市長  
國島芳明

## 平成のあゆみ

●平成元年2月

ワイドビューひだ号導入

●平成2年10月

天皇陛下の即位に位山イチイの笏木献上



●平成3年10月 飛驒ナンバー導入

●平成3年10月 天皇皇后両陛下ご来高  
飛驒の里や特別養護老人ホーム豊楽園をご視察され、飛驒の里では、菜洗いや笏の製作実演をご見学されました。

●平成20年7月

東海北陸自動車道の全線開通

●平成23年3月 東日本大震災

高山市は震災直後から消防職員や保健師の派遣、救援物資を届けるなどの被災地支援や避難者の受け入れを行い、現在もこの経験と教訓を風化させず、復興支援と防災への取り組みを進めています。

●平成24年2月

ぎふ清流国体冬季大会

●平成24年9月～10月

ぎふ清流国体・清流大会



●平成27年4月

協働のまちづくりが本格的にスタート

●平成28年4月

飛驒匠の技・こころ  
—木とともに、今に引き継ぐ1300年—が日本遺産に認定

●平成28年11月 市制施行80周年

4月には秋祭の布袋台が中橋を渡り春の屋台と同じ

